

# “人の命を乗せているJRは安全最優先へ抜本対策を” 党調査団が申し入れ



JR北海道本社に申し入れる調査団(9月26日)

日本共産党は26日、レール異常の放置や走行中の特急列車からの出火、発煙、脱線など異常事態が続発しているJR北海道にたいし、「人の命を乗せているJRは、安全最優先への抜本対策を」と要求しました。この後調査団は、車両の検査や点検を行う苗穂工場を視察しました。この申し入れには、穀田恵二衆院議員、紙智子参院議員、大門実紀史参院議員、辰巳孝太郎参院議員、真下紀子道議、畠山和也道政策委員長、森つねと国政相談室長が参加しました。調査後記者会見を行い、紙議員は「分割民営化以来、安全が置き去りにされてきたことが明らかになりました。寒冷地で広大な北海道という地域の持つ特殊性を考慮した安全基準が必要であり、経営方針も安全第一に切り換えるべきです。国はJRまかせにせず、安全基準づくりに積極的に関与すべきです」と話しました。

## “こんな状態で安全を守れるのか”

本社の説明と苗穂工場の視察、そして夜JRの現職やOBの労働者との懇談で次のようなことが明らかにされました。

**分割・民営化後の保線体制**は、手稲、白石の保線管理室を廃止して札幌に統合、当初80人いた職員が29人に減らされてしまいました。こんな状態で外注化が進み、その外注した業者も手が回らない。

### 労災は激増

昭和62年は職員13000人にたいし労働災害が33件発生、これが平成24年になると職員が7000人に激減しているのに、労働災害は49件に増え、率にして約3倍になっています。

### 2年間の新人研修が、いまは3か月

国鉄時代の新人研修は2年だったが、いまは3か月。ハンマーやドライバーに触れない人が現場に入ってきている。

### 走行中に車両部品が落下

走行中に外れそうになっていた部品を、落ちないように針金で縛ってきた事例がある。古くなった車両を使っているため部品をおとしてくるのが生まれている。

### 技術の継承がされず職員の年齢構成に大きなゆがみ

研修職場の48歳男性のすぐ下の年齢は24歳。年齢構成に大きなゆがみがあり、技術の継承は行なわれていない。



JR苗穂工場を視察、説明を聞く調査団(9月26日)

## いまやるべきこと

日本共産党は、国会が閉会中の審査を行うよう衆・参の国土交通委員長に申し入れました。

- JR北海道は安全優先の立場に立ち、必要な人、物、予算を確保すること
- 国はJRまかせにせず、北海道特有の条件をふまえて安全基準づくりなどに積極的にかかわること
- 分割民営化以降の総括を労働現場の声を踏まえて行なうこと

**「第26回党大会成功・党勢拡大大運動」へダッシュ!**

**函館ではたやま副委員長が、札幌で森国政相談室長が支部とともに党勢拡大!**

はたやま道副委員長は函館地区8中総報告集会を終え翌日に支部と行動し入党者を迎えました。森室長は29日、清田区の支部と朝9時30分から意思統一行動。区委員会はH1、N5拡大。8中総のよびかけにこたえ、大運動にダッシュしましょう。